

■日程：2024年7月3日（水）～7月6日（土）

■ボランティア参加者数：16名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
7月04日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	10名
7月04日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	32名
7月04日（木）	穴水町中居地区 住吉公民館	21名
7月04日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	23名
7月05日（金）	穴水町志ヶ浦地区 志ヶ浦コミュニティセンター	20名
7月05日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	58名
7月05日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	31名
7月05日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	30名

■被災者の声（主なもの）

- ・漁に出られないのがつらい。家族から海の中も隆起したりして座礁する可能性があるの海に出るのを止められている。七浦の船はどうなっているのか情報がなく分からない。
- ・震災前に高齢を理由に免許返納したが、店が遠くて買い物に困っている。近所にスーパーが開店するのを心待ちにしている。
- ・この家売り払うつもりだったが修理するために月に何度か京都から通っている。将来は、ここでみなさんにお茶を出したい。
- ・公費で家の解体が始まった。粉塵がひどくてつらいが、我慢している。家がなくなることは悲しいがすっきりした。
- ・仮設住宅にエアコンが1台しかないの暑い。もう1台つけたいが、お金がかかるので悩んでいる。
- ・サロンの開催が毎回楽しみ。みんなと会うのが楽しい。一週間ぶりに家族以外の方と話した。ボランティアが帰っていくととても寂しく感じる。
- ・家屋が倒壊して3ヶ月間一人で家を片付けていた。腰痛になりボランティアセンターへ連絡して手伝ってもらった。お願いするのが申し訳なくて遅れてしまった。
- ・子どもがいなくなってしまった。前は学校があったのになくなってしまった。
- ・こうやって話をする事で自分も前を向くことができるわ。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・「毎週来られるのはわかっているから、もうチラシはいらなよ。」と言われた。サロン活動が地域に定着しているのを感じた。
- ・ボランティアによる紙芝居とゲームを開催。笑顔と一体感が生まれました。
- ・話を伺った女性が生まれてからずっとこの地域に住んでいるそうで、この土地が本当好きなんだと感じた。集会場から見える海の景色が素晴らしかった。ボランティアに行くと逆に力もらった。

